

1. 授業の目的と概要

本授業では、結婚・出産という家族形成行動がマクロ経済全体としてどのように行われるのか、Family Economics の理論およびサーチ・マッチング理論を用いて学習する。

2. 学習の到達目標

日本では急速に少子化が進んでいるが、このことは多くのマクロ経済問題の根源となっている（労働力減少による成長率低下・年金の維持可能性等）。統計によると、経済全体の出生率が低下している一方、既婚の夫婦が生涯にもつ子供の数は大きく減少しておらず、少子化は晩婚化・非婚化の結果と考えられる。そこで、本授業では人々がいかに結婚・出産という選択を行うのか、経済全体としての配偶者のマッチングはどのように形成されるのか、理論モデルを用いて学習する。それにより、経済環境や政策の変化がいかに結婚・出産行動に影響を与えるのか理解する。

3. 授業の内容・方法と進度予定

基本的には講義を行うが、徐々に受講者による発表も取り入れる。

扱うトピックとしては下記を予定している。

- Facts on Marriage
- The Gains from Marriage
- Matching on the Marriage Market: Theory
- Sharing the Gains from Marriage
- Investment in Schooling
- An Equilibrium Model of Marriage, Fertility, and Divorce
- Children and Family Structure

4. 成績評価方法

報告・ディスカッション等授業への貢献、および平常の参加状況による

5. 教科書と参考書

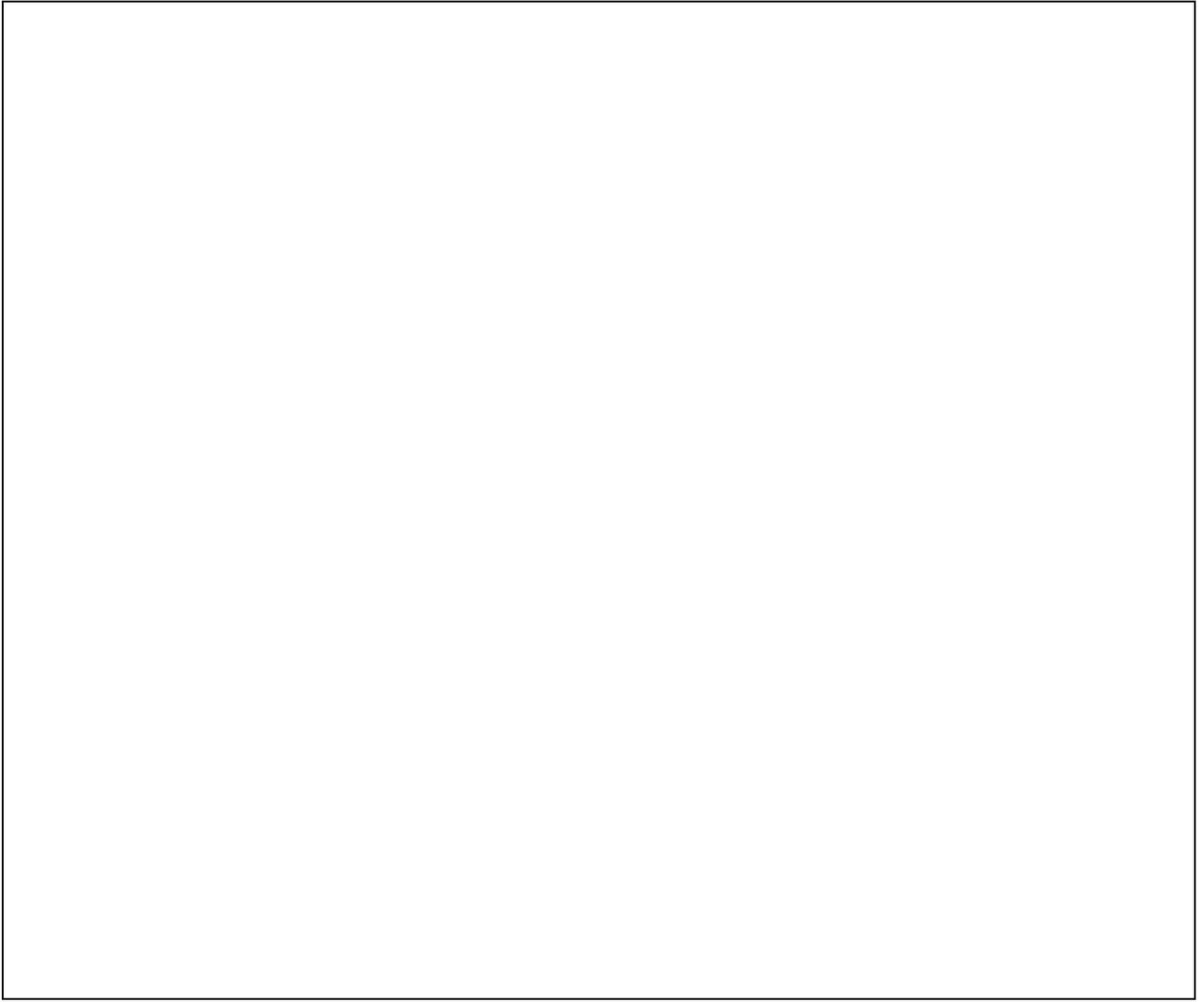
Martin Browning, Pierre-Andre Chiappori, and Yoram Weiss “Family Economics,” yet to be published, draft version downloadable from the author’s website at http://www.tau.ac.il/~weiss/fam_econ/

6. 予習と復習について

報告担当者は十分な準備が求められる。

7. その他（使用言語、履修の条件、連絡先、オフィスアワー等）

- 言語：外国人が授業参加している場合、講義は英語で行う。口頭でのディスカッション・報告は英語・日本語いずれでも可だが、資料は英語で作成すること。
- 履修の条件：中級ミクロおよび中級マクロ経済学を履修済み・同時履修しているか、同様の知識があることが望ましい。
- 連絡先：ホームページ www.econ.jpn.org/horii/ を参照のこと
- オフィスアワー：初回授業時に連絡します。



[テキストを入力]